

ワイルド・スワン

WILD SWANS Three Daughters of China JUNG CHANG

上

ユン・チアン

土屋京子＝訳



講談社

ワイルド・スワン

WILD SWANS Three Daughters of China JUNG CHANG

上 ユン・チアン

土屋京子=訳



●訳者紹介

土屋京子（つちやきょうこ）

翻訳家。1956年愛知県生まれ。東京大学教養学部卒業。英字誌編集者を経て、現在に至る。訳書に『地球を救うかんたんな50の方法』『人生を成功させる7つの秘訣』『ZAPP!』『大接戦』（いずれも講談社）など。

ワイルド・スワン 上

1993年1月25日 第1刷発行
1994年8月18日 第34刷発行

著 者 ユン・チアン

訳 者 土屋京子

発行者 野間佐和子

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目12-21 郵便番号112-01

電 話 編集部 03-5395-3523

販売部 03-5395-3622

製作部 03-5395-3615

印刷所 豊国印刷株式会社

製本所 黒柳製本株式会社



定価はカバーに表示してあります。

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせは学芸図書第三出版部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-205653-4 （学三）

ワイルド・スワン
上

この本を見ることなく逝つた
祖母と父のために

著者註

本書に登場する人物のうち、私の家族および公人は、本名です。その他の人々については、名前と肩書きを変えています。

日本のみなさんへ

『ワイルド・スワン』は、私の祖母、母、そして私自身の物語です。祖母と母は、一九三一年から一九四五年まで日本が支配する満州国で暮らしました。私自身は、満州国の暮らしは経験していません。祖母も、母も、私も、異常な時代と異常な社会に翻弄されながら生きてきました。とほうもなく残酷な時代であり、それだけになお、崇高な人間性が強い光を放った時代でもありました。今日の西欧や日本の比較的平穏な暮らしのなかでは、当時の異常な行為はなかば忘れ去られ、社会の表面に出る機会がありません。『ワイルド・スワン』は、極限状況のなかで人間は何をするか、何ができるかを書いた本です。とくに、あのような時代にあっても崇高な人間性を保って生きた勇氣ある人々に敬意をこめて、私はこの本を書きました。

本のなかに、母と親しかった「田中先生」という日本人の先生が出てきます。田中先生は、満州国の錦州チンタウの学校で教師をしていた、ごくふつうの日本人女性です。蜜行が支配した時代に、田中先生は生徒を思いやる勇氣を持った人でした。田中先生の見せてくれた人間性は、中国人であろうと英国人であろうと日本人であろうと人間は人間なのだという確信を抱かせてくれます。読者のみなさんも同じ思いを感じてくだされば、幸いです。田中先生は、生きていらつしやれば六十代になっておられるはずです。この本が、私自身と私の母からの深い尊敬の氣もちを田中先生に届けてくれたら、どんなにすばらしいでしょう。

一九九二年十二月、ロンドンにて

張チン・ロン 戎

謝辞

この本を書くにあたり、英語の表現を含めてさまざまな面で、ジョン・ハリデイが力になってくれました。彼との日々の話しあいをつうじて、私の書きたいこと、考えていることが一層明確になりました。また、書きたい内容にぴったりの表現をみつけることもできました。ジョンの歴史家としての豊富な知識、細部まで検証する誠実さ、健全な判断力に支えられ、私は安心して筆を進めることができました。

エージェントのトビー・イーディー氏にも、たいへんお世話になりました。私にこの本を書くよう最初にすすめてくれたのは、彼でした。ニューヨークのサイモン&シュスター社およびロンドンのハーバー・コリンズ社で編集にあたってくださった方々にも、お礼を申し上げたいと思います。また、私の話に興味を抱き、もっと書いてほしいと励ましつづけてくれた友人たちにも、心からの感謝を送ります。

この本に登場した私の姉や弟たち、そして中国にいる親戚や友人たちには、なんと行って感謝の気もちを表せばいいのかわかりません。彼らの承諾がなかったら、この本を書くことはできませんでした。

本の大半は、私の母の物語です。母の思いが余すところなく伝われば、と思っています。

一九九一年五月、ロンドンにて

張
戎

ワイルド・スワン 上／目次

日本のみなさんへ

謝辞

第一章 「三寸金蓮」

——軍閥將軍の妾（一九〇九年～一九三三年） 15

第二章 「ただの水だって、おいしいわ」

——夏先生との再婚（一九三三年～一九三八年） 46

第三章 「満州よいとこ、よいお国」

——日本占領下の暮らし（一九三八年～一九四五年） 74

第四章 「国なき隷属の民」

——さまざまな支配者のもとで（一九四五年～一九四七年） 93

第五章 「米十キロで、娘売ります」

—— 新生中国への苦闘（一九四七年～一九四八年） 120

第六章 「恋を語りあう」

—— 革命的結婚（一九四八年～一九四九年） 150

第七章 「五つの峠を越えて」

—— 母の長征（一九四九年～一九五〇年） 185

第八章 「故郷に錦を飾る」

—— 家族と匪賊の待つ四川省へ（一九四九年～一九五一年） 200

第九章 「主人が高い地位につけば、鶏や犬まで天に昇る」

—— 清廉潔白すぎる男（一九五一年～一九五三年） 227

第十章

「苦難が、君を本物の黨員にする」

——母にかけられた嫌疑（一九五三年～一九五六年）

256

第十一章

「反右以降、口を開く者なし」

——沈黙する中国（一九五六年～一九五八年）

274

第十二章

「米がなくても飯は炊ける」

——大飢饉（一九五八年～一九六二年）

298

第十三章

「だいじなだいじなお嬢ちゃん」

——特権という名の繭の中で（一九五八年～一九六五年）

329

第十四章

「父よりも、母よりも、毛主席が好きです」

——毛沢東崇拜（一九六四年～一九六五年）

353

ワイルド・スワン 下／目次

第十五章 「まず破壊せよ、建設はそこから生まれる」

第十六章 「天をおそれず、地をおそれず」

第十七章 「子供たちを『黒五類』にするのですか？」

第十八章 「すばらしいニュース」

第十九章 「罪を加へんと欲するに、何ぞ辞無きを患へんや」

第二十章 「魂は売らない」

第二十一章 「雪中に炭を送る」

第二十二章 「思想改造」

第二十三章 「読めば読むほど愚かになる」

第二十四章 「どうか、多くの謝罪を聞いてください」

第二十五章 「かぐわしい風」

第二十六章 「外国人の屁を嗅いで芳香と言うに等しい」

第二十七章 「これを天国と呼ぶなら、何を地獄と言うのか」
翼をこの手に

エピローグ

訳者あとがき

年譜

装幀
辰巳四郎

家系図

フエルト職人ヤン 楊 夫人
(~1942)

チアン 張 氏 (1888~1933) 張 夫人 (~1958)

ヤン・ル・シヤン 楊 汝 山 ウー・アルヤトウ 呉「二丫頭」
(1888~1955)

ユイファン 玉 芳 (著者の祖母)
(1909~1969)

ユイラン ラン 玉蘭／蘭
(1917~1960)

ユイリン 玉 林
(1930~)

① シュエチホン 薛之珩將軍
(正妻のほか、姨太太多数)
(1876~1933)

シアオシエタペイオー
「效石」佩歐
(~1960)

ユイリン 玉 林 夫人
(1927~)

② シヤ・ロエイタン 夏 瑞 堂 先生
(前妻との間に三男一女)
(1870~1952)

チュンイン 俊 英
(~1970)

ほかに子女七人

パオチン シヤ・トーホン 宝 琴／夏 德 鴻 (著者の母)
(1931~)

ワンユイ チアン・シオウユイ 王 愚／張 守 愚 (著者の父)
(1921~1975)

シアオホン 小 鴻
(1950~)

アルホン エン 二 鴻／戎
(1952~) (著者)

チンミン 京 明
(1953~)

シアオヘイ 小 黑
(1954~)

シアオファン 小 方
(1962~)

チヨンイ 正 誼

